ブルゴーニュ大学　留学報告書

法文学部人文社会学科

井上奈緒

留学国名　フランス
留学期間　１学期間
実施年月　2023 年 1 月～4 月

・留学しようと思った理由

高校生の頃から、留学をしたいと考えていたのですが、当時は、英語力を向上させたいという理由でした。高校時代は、剣道部に所属し、文武両道を掲げて勉強と部活に毎日取り組んでいたので、目先のことで精いっぱいで、結局留学に行くことができませんでした。大学生になったら留学に行きたいという思いを胸に入学し、入学後まもなく、生協に足を運び、留学に関するパンフレットを取り寄せてもらったり、メンターの先生や留学に詳しい先生に相談したりして、自分なりに留学に関する情報収集に努めました。

大学入学後の私は、語学力を上達させるために留学に行きたいというよりも、海外の大学で外国人の価値観や文化に触れながら勉強したいという目的に心変わりしていました。そのため、語学学校ではなく、学部・院の授業料が無償である交換留学協定校での留学が、留学の目的や経済面の観点から、最も自分に合っているという結論に至りました。１年生の夏に、大学の事務方を通じて交換留学派遣生募集の案内が届きました。その時点では、コロナの影響で、オンラインでの参加のみ募集を受け付けている大学、または留学生の受け入れを中止している大学が多かったです。実際に渡航して学びたいという思いが強かったので、すぐには申し込ませんでした。実際に出願するまでの１年間、留学に関する情報収集は怠らず、フランス語の勉強や現地で学びたい学問分野の特定、留学費用の準備などに取り組みました。

１年間の準備の末、２年生の夏に届いた交換留学派遣生の募集の案内には、状況が変わらない限り、実際の渡航を認めるという内容だったので、決意を固めて申し込みました。学内選考の末、渡航が決まったときはとても嬉しかったです。語学の勉強や、渡航・入寮手続きの際に、フランス語の先生には大変お世話になりました。とても感謝しています。

・この大学を選んだ理由

英語圏の大学かフランスへの留学、どちらに出願するか迷いましたが、学びたい学問が学べることを優先し、ブルゴーニュ大学を選びました。加えて、私は第二外国語にフラン

ス語の授業を履修しており、フランス語を学ぶことに楽しさを感じていました。英語と違って、単語の読み方には強固な規則性があり、スペルをみただけでその単語の発音が分かることや、お店の名前や外来語など日常生活にフランス語起源の単語がたくさんあることも興味深かったです。

私の専攻は政治学で、ゼミでは、自治体が抱える問題に対する解決策を考えています。留学に際して、私は、留学先では、愛媛大学の法文学部では学ぶことができないけれど、自分の興味のある学問を学びたいと思っていました。実は、高校時代は、法学部に行きたくて毎日受験勉強をしていたのですが、いざ大学に入ってみて授業を受けて、自分は法学よりも政治学に興味があることに気づきました。学びたい内容と実際の授業のミスマッチを防ぐために、自分の興味のある学問について、本当に自分が学びたい学問を特定することに努めました。大学１年生の夏以降、大学図書館で、経済学や地理学、心理学、歴史学や言語学、文化人類学など、月に約 10 冊、様々な学問の書籍を読み漁りました。もともと本を読むことは好きなのですが、特に心理学や言語学など、知らない概念や難しい単語が多くて、理解するのに苦戦したことを覚えています。そうして私が出した答えが、私は社会学と観光学に興味があるということでした。

愛媛大学の法文学部では、社会学を学ぶことはできますが、観光学を学ぶことはできません。なので、観光学を学べる交換留学先に焦点を当てて、留学先を選びました。フランスは、日本人のみならず、外国人が選ぶ行きたい旅行先として毎年上位を保っています。観光と言えばフランスというイメージを持っていたので、ブルゴーニュ大学で学べる学問を調べたところ、「Creative Tourism」という授業が自分の渡航予定の時期に開講されていることを知り、この授業を初めとして、観光学の授業が受けられる学部に入学願書を出すことに決めました。

・留学先で学んだこと

観光学を始め、経済学やＥＵ法を学びました。観光学の授業では、ブルゴーニュ大学が位置するブルゴーニュ地方に観光客を呼ぶにはどうすればよいかについて、級友と議論しながら考察しました。経済学の授業では、人件費や税金などを考慮しながら、会社が最も利益を出すことのできる方法を考え、実際に利益を計算しました。この授業では、次回の授業までに取り組む課題が多く、苦戦しました。ＥＵ法の授業では、ＥＵについて理解を深めるきっかけになりました。

また、ブルゴーニュ大学には、フランス語と英語で開講されている２種類の授業があり、この授業は英語で開講されているとのことでした。学び始めてまもないフランス語で開講されている授業を履修するよりも、英語で開講されている授業のほうが、内容が理解しやすいと考えたため、英語の授業を履修しました。

・留学先で楽しかったこと、辛かったこと

留学先での一番の思い出は、外国人の友達が作れたことです。それぞれ違うルーツを持ちながらも、言語に自分の思いや感情を乗せて意思疎通を図ることが、なにより楽しかったです。また、日本に興味を持ってくれている人が想像していたよりもたくさんいました。中には、日本の大学に留学予定の友達や旅行で日本を訪れたことのある級友もいました。現地で知り合った友達が来日した際は、精一杯のおもてなしをして恩返しができればいいなと思っています。辛かったことは、私のフランス語の習得レベルが低く、何かあったときに自分で自分の身を守れないということです。授業は、英語で開講されているものを履修していたので、先生・級友含め、英語で会話ができたので特に問題はありませんでした。しかし、街やお店に出かけた際、偶然英語の話せる人がいれば問題ないですが、あくまで公用語はフランス語のため、相手が許可しない限り、基本的にはフランス語で話す必要があります。困ったとき、一人では解決できそうにない問題に外出先で直面したとき、非常に困りました。例えば、スーパーマーケットでセルフレジを使った際に、割引の商品を買ったものの、おそらく元のバーコードを通してしまったので割引後の値段で会計できませんでした。店員さんに、通すバーコードを間違えて割引にならなかったことを伝えようとしましたが、なかなか伝わりませんでした。また、私が渡航した際、フランスでは年金改革に反対するデモが頻発していました。フランスのデモは大規模で、自分に危害が及ぶ可能性もあります。その国の公用語を話せないと、有事の際に、意思疎通が上手くできずに、自分の身が守れません。そのことが留学中とても不安で、常に身の安全に注意を払っていました。心の底から、留学を楽しむには、現地の公用語を日常会話で話せる・聞き取れる状態にしてから渡航することの大切さを実感しました。

・最後に

困ったこと、相談したいことがあれば、一人で悩まずに、指導教員や外国語の先生に相談するのが良いと思います。もし私で良ければ、あくまで１個人の経験ではありますが、ぜひ相談してください。現地で困った出来事に遭遇したことは確かにありましたが、その困難を払拭できるほど、楽しい出来事がたくさんありましたし、たくさんのことを学べました。渡航前の私は、一人で行動することが好きで、大抵のことは自分一人の力でできると思っていました。自立する力は今も重要だとは思っていますが、留学中、本当に多くの人に助けられ、人に頼ることの大切さと、人とのご縁を大切にすることを学べました。現地でお世話になった人たちにまたいつか会えることを信じて、これからも勉学に励みたいと考えています。

写真１　友人と街を出て、世界遺産へ

写真２　大学寮の学食、メインはハンバーグ、サラダとポタージュ
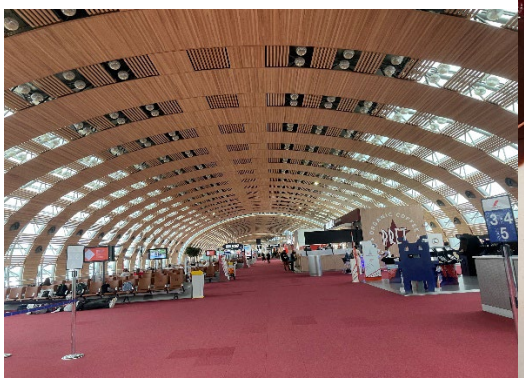
写真３　シャルルドゴール空港　出発ロビー　写真４　級友と近所のフランス料理店へ